

広島アニメーション

だより

広島メディア芸術を発信する情報誌



▲歴代ポスター展示 (写真: 松浦 妙子)



▲レッドカーペットを歩く監督 (写真: たっぷりさん)



▲映画祭の多彩なゲスト (写真: 松浦 妙子)



©2018 こうの史代・双葉社 / 「この世界の片隅に」製作委員会

『この世界の(さらにはいくつもの)片隅に』
2019年公開に向け、制作中!

登場人物の魅力を深める、新たな場面を追加!

戦前・戦中の呉・広島を舞台にしたアニメーション映画『この世界の片隅に』(監督: 片瀨須直、原作: こうの史代)は2016年11月の公開以来、全国で2年以上のロングラン上映が続いています。そして、新規場面を追加したもうひとつの作品が、『この世界の(さらにはいくつもの)片隅に』というタイトルで2018年12月公開予定とされていましたが、この10月、2019年になると発表がありました。完成が待ち遠しく楽しみです。

作品公開への期待、さらに高まる!

『この世界の片隅に』に新たな場面を追加して制作される『この世界の(さらにはいくつもの)片隅に』。ファンの間では、どの場面が追加されるのか予想する声も高まっています。すでに公式サイトでは、すずさんとリンさんの交流を描く昭和19年秋と20年冬～春のエピソードや、すみちゃんを案じながら迎える20年9月の枕崎台風などが追加されるという情報が発表されています。「広島国際映画祭2018」のワークショップ(2018年11月23日)の中で、監督は制作の進捗状況についても映像を一部交えながら紹介されました。すずさんの動き、お花見の群衆ひとりひとりの動き、季節の風景など、ワークショップの参加者(約100名)は、制作に大変な時間がかかることに改めて納得するとともに、作品公開への期待がさらに大きく膨らん

でいるようでした。

『この世界の片隅に』は、アニメーション映画化にあたり片瀨監督による丹念な時代考証の積み重ね、それを踏まえた繊細な映像づくりも注目されました。『この世界の(さらにはいくつもの)片隅に』も、新しく追加される場面や登場人物たちも丁寧に描かれて、ファンの期待を大きく上回る素晴らしい作品になりそうです。



▲進捗状況を語る片瀨監督

『この世界の(さらにはいくつもの)片隅に』映画サイト→
<https://ikutsumono-katasumini.jp>



特集

第17回 広島国際アニメーションフェスティバル HIROSHIMA 2018

ルーマニアのセルジウ ネグリチ監督・『ザ ブリスフル アクシデンタル デス』がグランプリ！
ヒロシマ賞はハンガリーのユディト ヴンデル監督・『ボンド』が受賞！

第17回広島国際アニメーションフェスティバルが2018年8月23日(木)～27日(月)の日程でJMS アステールプラザ(広島市中区加古町)で開催されました。愛と平和の精神のもと開催されるこのフェスティバルは、1985年の第1回大会から数え今回で17回目の大会となりました。今大会は7月に広島にも大きな被害をもたらした西日本豪雨災害の余波が残る中での大会となりましたが、国内外から多数のゲストや来場者をお迎えし、盛大に開催されました(延べ来場者数30,874人)。

今大会では世界88の国・地域から集まった2,842作品(過去最多を更新)の中から選考審査を通過した75作品がコンペティション(公開審査)によって審査されました。

グランプリに輝いたのはセルジウ ネグリチ監督による『ザ ブリスフル アクシデンタル デス』(ルーマニア)。ヒロシマ賞にはユディト ヴンデル監督の『ボンド』(ハンガリー)、そして木下蓮三賞にはロレン ブライバン監督の『ジ オウガー』(フランス)がそれぞれ選出されました。デビュー賞はロマン ガルシア監督、ケヴィン タルピニアン監督、トマス ロペス-マシィ監督、アヴリル ユブ監督、ロラン マデック監督による『シロッコ』(フランス)。また観客賞にはブリット ラース監督の『キャサリン』(ベルギー)が選ばれました。さらに国際審査委員特別賞として7作品、優秀賞として5作品(観客賞と同時受賞作品あり)が選出され、合計16作品が入賞しました。



▲会場の様子

丸山 正雄審査委員長の講評

「それぞれのアニメーションの表現の自由さに圧倒されました。美しく魅力的な世界のなかにも、かなり挑戦的な新しい映像を展開したのも多く、ここヒロシマから世界に発展することのできる賞をいくつか選びだせたことを感謝します。」

受賞作品

～挑戦的な新しい映像を展開～ 5賞の紹介



👑 グランプリ

『ザ ブリスフル アクシデンタル デス』
The Blissful Accidental Death

監督：セルジウ ネグリチ Sergiu Negulici



©Moholy-Nagy University of Art and Design Budapest

👑 ヒロシマ賞

『ボンド』 **Bond**

監督：ユディト ヴンデル Judit Wunder



デビュー賞 『シロッコ』 **Sirocco**

監督：ロマン ガルシア、ケヴィン タルピニアン、トマス ロペス-マシィ、アヴリル ユブ、ロラン マデック
Romain Garcia, Kevin Tarpinian, Thomas Lopez-Massy, Avril Hug, Lauren Madec



木下蓮三賞
『ジ オウガー』 **The Ogre**

監督：ロレン ブライバン Laurene Braibant



観客賞(優秀賞も受賞)

『キャサリン』 **Catherine**

監督：ブリット ラース Britt Raes

■アニメーションを合言葉にした交流の数々



第17回広島国際アニメーションフェスティバル（2018年8月23日～27日）では、アニメーション制作に関連する教育機関を紹介するエデュケーショナル・フィルム・マーケットをはじめ、子どもを対象にしたアニメーション制作体験やクリエイターや専門家による様々なサブイベントも開催されました。

フェスティバル前日には紙屋町シャレオ中央広場で前夜祭も開催。さらに23日にはフェスティバルの参加者が「ヒロシマ体験ツアー」に参加し、ボランティアガイドの安田女子大学の学生たちとともに原爆ドーム、爆心地、記念碑などを見学しました。また、毎回、各国のゲストをおもてなしするピクニックが開催されていますが、今年は島根県の匹見峡に行きました。地元の方々美味しい料理や神楽で歓迎。各国からのゲストは川遊びや温泉とともに匹見峡の魅力を堪能されました。

広島国際アニメーションフェスティバルは、素晴らしい作品の上映に加え、まさにアニメーションを合言葉に、国や地域、年齢や性別を越えた交流が実現する場になっています。



●Event Report ①

■国際アニメーション・デー 2018 in 広島

主催：広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会、広島市、公益財団法人広島市文化財団、国際アニメーションフィルム協会（ASIFA）、ASIFA日本支部（ASIFA-JAPAN）



国際アニメーション・デー 2018 in 広島が、10月27日（土）、29日（月）、11月3日（祝・土）、4日（日）、10日（土）の5日間、広島市及び呉市の4つの会場で開催されました。これまでの広島国際アニメーションフェスティバル入賞作品の数々が上映され、総計249人の来場者がアニメーションの世界を堪能しました。

国際アニメーション・デーは、フランスのエミール・レイノーが1892年に世界ではじめてアニメーションを一般公開したとされる10月28日を記念し、国際アニメーションフィルム協会（ASIFA、本部：フランス・ヌメシー市）がアニメーションアートの普及と発展を目的として決めました。同協会では、2002年から各国のASIFA支部を中心に毎年10月28日およびその前後に世界中で“同時”にアニメーションの催しを行う企画を展開しています。日本でもASIFA日本支部（ASIFA-JAPAN）が主体となって、2005年からこの企画に参加しています。



◀▼会場の様子
（左：乙女座、下：県立美術館）



●Event Report ②

2万1千人が来場！ ■横川ゾンビナイト 4 ゾンビと出会う2日間



2018年10月26日(金)、27日(土)、広島市西区の横川商店街で「横川ゾンビナイト4」が開催され、2日間で2万1千人がイベントを楽しみました。イベントでは恒例のフェイスペイント(ゾンビ感染所)で来場者がゾンビに変身。会場の各所で行われるフラッシュモブやゾンビスタッフと遭遇して気分を盛り上げます。また、ステージでの様々なパフォーマンスやクリエイターによる作品展示、最新のVRやプロジェクションマッピングなども大人気。さらに今回はゾンビをテーマにしたドリンクやフードにも力が入っていました。ゾンビ酒場にゾンビ・バー、出張ゾンビ酒蔵などたくさんの飲食ブースもイベントを大いに盛り上げました。

広島市西区の横川商店街と広島メディア芸術振興プロジェクトのコラボ企画として始まったこのイベントも今年で4回目。横川のハロウィンイベントとしてすっかりと定着してきたようです。来場者も若者だけでなく、仕事帰りの会社員の方や小さな子どもを連れた家族など、幅広い年齢層が気軽に楽しめるイベントとしてますます目が離せません。



横川ゾンビ大学 今年も開講！

『ゾンビ学』の著者で観光社会学が専門の岡本健先生による「横川ゾンビ大学」、今年も開講されました。

岡本先生は、ゾンビ映画の歴史や魅力の解説をはじめ、コンテンツ・ツーリズムの視点から横川ゾンビナイトを分析し、高く評価。約60名のゾンビ達(聴講生)を前に熱心に講義をされました。

「横川ゾンビ大学2」 2018年10月27日(土) 19:00-20:00 会場：横川シネマ
講演：岡本健氏(奈良県立大学准教授)
ゲストコメンター：貫名貴洋氏(広島経済大学准教授)、石橋健太氏(マグマワークス代表)
コーディネーター：谷口重徳(広島国際学院大学教授・NPO法人広島アニメーションシティ事務局長)
講座提供：NPO法人広島アニメーションシティ



▲ゾンビ大学の様子

★Pick Up!

■岡本健『巡礼ビジネス～ポップカルチャーが観光資産になる時代』(角川新書、2018年12月)

横川ゾンビナイトも分析！

ゾンビ大学でおなじみの岡本健先生(奈良県立大学准教授)が、『巡礼ビジネス～ポップカルチャーが観光資産になる時代』を上梓。近年、各地で進められているアニメや映画、小説、ドラマなどのコンテンツをテーマにした観光の取り組みについて、豊富な事例をもとに分析・解説。アニメの舞台になった地域をファンが訪れる「アニメ聖地巡礼」など、ポップカルチャーが新たな観光資産になる可能性をコンテンツ・ツーリズムの視点から論じられています。

もちろん横川ゾンビナイトも本書で詳しく解説されています。本書を通じ、横川ゾンビナイトがさらに全国から注目される可能性もありそうです！

▶岡本健先生



速報！「幕末彼氏伝」 開催決定！！ 地域に伝わる偉人伝×ポップカルチャー

幕末に活躍した広島藩の志士達等をキャラクター化し、展示・トークショー・ステージ等で紹介。

日程：2019年3月21日(木・祝) 10:00-18:00(予定)

場所：JMS アステールプラザ1階市民ギャラリー

主催：幕末彼氏伝開催委員会

入場料：無料 詳細は次号の『広島アニメーションだより』(18号)にてお知らせします。





▲Post City 会場

2018年9月6日から10日にオーストリアのリンツにてアルスエレクトロニカ・フェスティバルが行われました。この祭典は1986年から毎年行われ、世界最先端のメディア芸術を鑑賞、体感することができる国際展です。

私自身、2015年にもここを訪れていたのですが、そのときと比較するとAI、3Dプリント、バイオ系の作品が増えており、特にVRゴーグルを使用した作品が数多く登場したことに驚きました。ただ、「表現」のためにVR技術を使用するというよりは、「機器」が先行している作品も多く、まだアーティストたちもどのように「機器」を用いて芸術表現していくか模索しているように感じました。また3年前には8Kの高解像度映像が先端技術として紹介されていましたが、今年は新しい技術というより表現の映像として観ることができました。

メディア芸術は社会や文化の動向だけではなく、科学技術の進歩にも呼応して「いま」を表象している芸術であると改めて感じるものになりました。

- 広島国際学院大学 講師 岡川卓詩 (メディアアート)



▲展示会の様子(左・中央)、入り口付近の様子(右)

◆ Event Information

■ ぶち!! ひろしまゲームスタジアムIV

総合学園ヒューマンアカデミー広島校が広島でゲーム制作を学ぶ若者と全国のゲーム企業を結びつけるイベントを開催します。今年で4回目となるこのイベントではスペースを更に拡大。大手ゲーム企業によるセミナーや業界関係者による座談会(ゲームTHE談会)、学生作品展示などパワーアップした内容が予定されています。ゲーム業界での活躍を目指す若者にとってプロのゲーム制作者と接する貴重な機会です。



日時: 2019年2月11日(月・祝) 10:00-18:00

場所: 合人社ウェンディひと・まちプラザ北棟5階 研修室A・B・C 参加料: 無料

ゲーム業界に興味のある学生であればどなたでも参加できます。詳細は主催者へお問い合わせください。

お問い合わせ先: 総合学園ヒューマンアカデミー広島校 TEL: 082-511-1691

■ HASHIWATASHI プロジェクト『この世界の片隅に』無料上映会

HASHIWATASHI PROJECT presents ~西日本に元気と笑顔を広げたい~
映画でつながる『この世界の片隅に』無料上映会(広島・岡山・愛媛)

広島(1/14)、岡山(1/15)、愛媛(1/25)で開催。

3県すべての会場で、主人公・北條すず役のんさん&真木太郎プロデューサーのトークイベントあり!ステキなお年玉ですね♪

★詳細・応募受付は上映会 HP⇒<http://hashiwatashiproject-konosekai.jp/>

◆ 広島県

日時: 2019年1月14日(月・祝) 開場 16:00/開演 17:00 会場: JMSアステールプラザ 中ホール(広島市中区加古町4-17)

応募期間: 2018年12月13日(木) ~ 2019年1月3日(木) 23:59 まで

当選結果: 2019年1月4日(金)以降、メールにて連絡

【HASHIWATASHI プロジェクト】

7月豪雨災害で被害を受けた各地の地域の魅力を発信し、観光需要回復、風評被害払拭支援により復興をはかるために経済産業省が行う応援プロジェクトです。

人・地域・物が「つながる」ことで、西日本に元気と笑顔を広げることを目的にした活動が展開されています。

このプロジェクトと連携して、映画『この世界の片隅に』の無料上映会が広島・岡山・愛媛の3県で開催されます。

公式サイト⇒<https://hashiwatashiproject.jp/>

◆ Event Information

■メディア芸術系の大学・短大・専門学校 卒業制作展特集

比治山大学短期大学部 美術科 第51回卒業制作展・第17回修了制作展

広島県立美術館 / 県民ギャラリー (広島市中区上幟町 2-22)

2019年1月8日(火)~1月13日(日)

9:00 -17:00(金曜日 19:00 まで)

広島市立大学 芸術学部 第22回広島市立大学 芸術学部 卒業・修了作品展

広島市現代美術館 (広島市南区比治山公園 1-1)

広島市立大学芸術学部棟 (広島市安佐南区大塚東 3-4-1)

2019年2月13日(水)~2月17日(日)

10:00 -17:00(入場 16:30 まで)

広島国際学院大学 情報デザイン学科 第12回卒業研究・卒業制作展

JMS アステールプラザ / 市民ギャラリー (広島市中区加古町 4-17)

2019年2月15日(金)~2月17日(日)

10:00 -19:00(最終日 15:00 まで)

広島コンピュータ専門学校 学生作品展 2019

広島コンピュータ専門学校 (広島市西区横川新町 7-12)

2019年1月25日(金)~1月27日(日)

10:00 -16:00(最終日 14:00 まで)

穴吹デザイン専門学校 卒業修了制作展 2019

広島県立美術館 / 県民ギャラリー (広島市中区上幟町 2-22)

2019年3月12日(火)~3月17日(日)

9:00 -17:00

広島情報専門学校 卒業研究発表会

南区民文化センター (広島市南区比治山本町 13-27)

2019年2月22日(金)

10:00 -14:00(予定)

速報! ポップカルチャーひろしま 2019 開催決定!!

日程:2019年4月13日(土)・14日(日) 主催:ポップカルチャーひろしま2019実行委員会、共催:NPO法人音楽は平和を運ぶ
場所:広島県民文化センターおよびサンモール5階 YYY STUDIO(レンタルスペース)ほか。(広島電鉄・紙屋町西電停下車すぐ)

ポップカルチャーをキーワードに世界各地から若者が集まり、コスプレやアニソン、同人誌などを楽しみながら交流を行うイベントとして2017年から開催されています。第3回目となるイベントの開催決定のニュースをキャッチ。詳細は、次号の『広島アニメーションだより』(18号)にてお知らせします!

広島新銘菓
生もみじ

にしき堂

比治山大学
短期大学部
美術科
50

since 1967
美術科は設立から50年を越えました。これまでに3700名の卒業生を送り出した美術科は、これからも広島市と協力して新しい才能を発掘、育成していきます。

客員教授こうの史代原作
「この世界の片隅に」
絶賛、上映拡大中
広島人必見!

マンガ・キャラクターコース
映像・アニメーションコース

メディア芸術はここから

©Uehara

発行日: 2018年12月27日 発行部数: 5000部 発行: 広島市市民局文化スポーツ部文化振興課
編集: NPO法人広島アニメーションシティ (HAC) デザイン: 広島国際学院大学 情報文化学部 岡川卓詩研究室・山本 千晶・藤尾 晴香
【紙面についてのお問合せ】 NPO法人広島アニメーションシティ事務局
〒739-0321 広島市安芸区中野 6-20-1 広島国際学院大学 情報文化学部 谷口重徳研究室内
http://hac.or.jp Email: hac-jimu@hac.or.jp TEL: 082-820-2710 / FAX: 082-820-2680